
フェルナンド・ソル

超初心者のためのロマンティックギター入門曲集

The Sixteen Easiest Pieces by Fernando Sor
Edited by Brian Jeffery

編者前書

この本でご紹介する曲は、私(Brian Jeffery)の判断で、ソルが作曲した中で最も簡単なものばかりを選びました。彼はこれらの曲をギターのまったくの初心者向けに書きましたし、これは現代でも同じ用途にパーフェクトにあてはまります。これらの曲は、弾きやすいと同時にシンプルで、楽しく、しばしばとても美しい曲でもあります。ソルは1778年にバルセロナに生まれました。後にロンドンとパリに住みました。

彼と同時代のある人は、「ソル氏は音楽を深く理解し、心からその感動を伝えようとしている」と評しましたが、それは疑いなくこの本に収録した楽曲についても言えることです。

このエディションでは、原本に忠実のように、全ての曲をオリジナルのエディションから新規に編纂しなおしました。ソルは全ての曲にフィンガリングを書き込みましたので、この版ではソルのフィンガリングだけを記載しました。(例外は一部の開放弦を表す[o]の文字とごく一部のまぎらわしい指使いのところだけです)

奏法について

指導者の方々にご留意いただきたいのですが、今日では右手の薬指を使うことはまったく問題ないとみなされていますが、ソル自身は彼のメソードの中で詳細に述べているように4声の和音以外では薬指はほとんど使いませんでした。私個人的にも、この本に収録された曲を演奏する際には薬指は和音を演奏するときだけ使って、メロディーを弾くには使わないというソルの奏法に従うのが一番簡単だと思います。

また、彼のメソードから明らかなのは、リュート奏者がやるように、右手の親指を現代我々が親しんでいるよりもはるかに頻繁に、また高音弦の方まで拡張して使います。この本の11曲目に見られるようなメロディックなパッセージは、右手の親指と人差し指を交互に使って演奏されます。簡単ですからやってみてください!

装飾音とスラー

この曲集の中では2~3の装飾音しか出てきませんし、これらはオプションとして(奏者の判断で無視してもよい)考えて下さい。この初歩の段階ではスラーもオプションととらえて結構です。

編集

いくつかの明らかな誤植は訂正し、反復箇所は標準化しました。曲名はオリジナルのフランス語から英語に訳してあります。曲の最初にあるテンポ表記 (Andante, Allegretto など) は全てオリジナルですが、括弧の中の表記 ("rit.", "mf" など) は編者によるもので、単に示唆であるとみなしてください。

その他

この本の曲が好きになってもっと知りたいという方は、初学者のための全部で121曲あるソルの曲のTeclaから出版された「Sor's Complete Studies, Lessons, and Exercises」(TECLA 101)をご覧ください(後から付け加えたもの無しで純粋にソルの指使いのみです)

TeclaではまたSor's New Complete Works for Guitarや初心者向けのほかの作品、ギター用の数多くの曲集も出版しています。全容をご覧いただくには、この本の裏表紙かまたはwww.tacla.comをご参照ください。

この本の中の曲は Alexander V. Trukhin が版をつくりました。

Brian Jeffery

訳者ノート： インターネットに接続して映像を見ることができる読者は、この曲集の中の16曲全てのRob MacKillop演奏したビデオを視聴できます。本書とあわせてお楽しみください：

<http://robmackillop.net/guitar/fernando-sor/>

----以下、各曲の冒頭の注意書き-----

1. Lesson Introduction to the Study of the Guitar (op.60) no.1

この叙情的な曲はギター初心者のためのソルの古典的な曲集である Introduction to the Study of the Guitar の1曲目です。この曲は初学者の方が最初に人前で演奏する曲としても最適でしょう。この曲は一音一音はその音の長さいっばいに響くように、できるだけレガートに演奏しましょう。

ソルはこの「レッスン」についてこう言っています「まずゆっくりと練習して、自信と技術がつくにつれて少しずつ早く弾くように」。これは、この曲集の中で「Lesson」というタイトルがつけられた2番、5番、9番、11番、12番、それに15番の全てにあてはまります。

2. Lesson Introduction to the Study of the Guitar (op.60) no.2

この曲では、冒頭から強くはっきりしたリズムを刻むことが大事です。各小節の1拍目に少しアクセントをつけて。しかし極端に大きな音を出そうとはしないように。各小節の3拍目を弾くときには次の小節の1拍目を意識するように。それによって、気持ちの上では次の音にリードしていく感じです。八小節目では軽くリタルランドをかけるのが良いでしょう。

3. Andante 24 Short Progressive Pieces for the Guitar to serve as lessons for absolute beginners (op. 44), no. 1

演奏を始める前に、左手の指でCの和音の形を押さえて下さい。それで最初の小節の音にはすべて用意ができていますから、二小節目に入るまでは左手を動かす必要はありません。

13小節から16小節目までと、29小節から32小節目までには二つの独立したメロディーがあります。曲の構想をはっきりと表現しようと思うなら、どちらのメロディーも十分に聞こえねばなりません。なので、全ての音を、指示された音の長さ一杯に響かせて、どの音も未然に途切れさせてはいけません。

16小節目の最後の音は24小節目の3番目の音まで続く、対照的なメロディーの最初の音です。この部分については他と違う音色を使ってもよいかもしれませんね。

4. Allegretto 24 Short Progressive Pieces for the Guitar to serve as lessons for absolute beginners (op. 44), no. 2

この曲でも、弾き始める前に左手指をCの和音の形に押さえましょう。最初の4小節の間はアルペジオの効果が出るように左手はまったく動かしません。22小節目を弾くときは23小節目に備えて人差し指と中指は押さえたままにしましょう。この美しい小曲にはしっかりした元気なリズムが必用です。参考にした(= 括弧でくくられた) 強弱や24小節目のリタルダンドも効果的ではないでしょうか。

5. Lesson Introduction to the Study of the Guitar (op.60), no.13

これは、ソルが彼のメソッドの中で、良いテクニックを身につけるための基礎としてとても重要だと言っている3度と6度の練習です。

並行3度と6度を最大限はっきりと聞かせるために、各音はほとんど例外なく同時に弾かれるべきです。コードを分散させる(= アルペジオで弾く) ことは一般的に割けるべきです。9小節目に始まる開放G(ソ)の音はメロディーのラインよりもソフトに、繊細な感じで弾きましょう。

6. Andante 24 Progressive Lessons for the Guitar (op.31), no.1

ソルはこの曲について、生徒が左手を正しく保持することに慣れさせることが主目的だと書いています。演奏を始める前にCの和音を押さえましょう。16小節目から反復で最初に戻るときも左手は動かさずにおきます。

ベースのラインがとても大事です。全体を通じて、ベースがはっきりと聞こえて、各音符の音いっばいに伸びているように意識してください。

各小節の第三音(最後の音)を弾くときには次の小節の最初の音を意識するように。

7. Andante 24 Very Easy Exercises for the Guita (op.35), no.1

この叙情的な曲はできるだけ滑らかに、歌うように弾きましょう。

曲の中心を構成する9小節目から24小節目の中声部、開放Gの音は他の音よりもソフトに弾いて下さい。

8. Waltz: Andantino 24 Very Easy Exercises for the Guita (op.35), no.2

ワルツ形式のこの曲は、この踊りの軽快さを感じるように弾きたいですね。各フレーズはとても優雅な感じで。いくつかの音量表現と音色を変えて演奏しても良いでしょう：例えば2小節目の3

拍目から4小節の2拍目までは、この部分がそれ以前の問いかけに対しての答えとなるように軽い感じの音色で弾いてもよいかもしれません。

8小節目に来たら左手は動かさない：レピートで曲頭にもどるにしても、次に進むにしてもすでに指は必要な位置にあるのですから。24小節目についても同じことが言えます。

13小節目のポジション移動には気をつけて。この部分だけ集中して練習すると良いでしょう。

9. Lesson Introduction to the Study of the Guitar (op.60), no. 10

これは「左手指は、他の音を押さえるために必用になるか、または開放弦にするために持ち上げるまではずっと押さえっぱなしにしておかねばならない」というソルの金言の完全な例題です。彼はこの曲を金言に沿ってアルペジオや持続音を演奏するといっぱいの豊かなハーモニーが聞こえるように作りました。

弾き始める前に小指を最高音のGを押さえながらCのコードを押さえて；そうすると、最初の小節で左手の唯一の動きは開放のEを出せるように小指を持ち上げることだけです。また、7小節目から8小節目にかけてと10小節目から12小節目にかけては低音と、高音もともに次の音を演奏しなければならなくなるまで、持続させてください。

10. Waltz “That’s It!” (“A la bonne heure”) 6 Waltzes for the Guitar (op.51), no. 1

全体を通してワルツの軽やかさを維持するように。

最初のパッセージは開放弦がたくさん出てきますが、ハーモニックというよりもメロディーを大事に弾きましょう。アルペジオ風にならないように。

ダカーポから最初に戻った後には繰り返しはしないで。

11. Lesson Introduction to the Study of the Guitar (op.60), no. 3

この曲では、最初に練習をはじめるときは八分音符のフレーズでもテンポを維持できるようにメトロノームを使うとよいでしょう。

この本の中で「レッスン」と標題がついているほかの曲と同様に、最初はゆっくり練習し、弾けるようになって自信がついてきたらテンポを早くします。しかし、特にこの「レッスン」はきびきびしたテンポで上手に弾くととても楽しい曲です。

12. Lesson Introduction to the Study of the Guitar (op.60), no. 5

これは、この曲集の他の曲よりも長めですが、努力して練習する価値のある魅力的な曲です。

最初はゆっくり、あとでテンポをあげて練習してください。左手の動きを最小限にすると、ずっと弾きやすくなると思います。左手の各指は、音楽的に、または技術的にどうしても上げざるを得なくなるまで押さえたままにしましょう。指の弦から離す距離はほんの少しにして、左手の動きは極力少なくなるように。たとえば7小節目から10小節にかけて、中指は4弦を押さえたまままったく離しません。

この曲は八分の六拍子なので各小節は前後3拍ずつの二つのビートに分かれます。それぞれがクリアに聞き取れるように各ビートをはっきりと演奏しましょう。

主題部(17小節目から40小節)では明るく、対照的な音色で演奏してみても良いのではないのでしょうか。ダカーポから曲頭にもどった後は繰り返しはしません。

13. Andantino 24 Short Progressive Pieces for the Guitar, to serve as Lessons for absolute beginners (op.44), no.3

これはシンプルな曲ですがモチーフが戻ってきたときに変奏を施します。
ベースラインが重要で、全体を通してしっかりと明瞭に弾いてください。

14. Minuet 24 Short Progressive Pieces for the Guitar, to serve as Lessons for absolute beginners (op.44), no.14

この曲の最後の方にある下降スケールではメヌエットのダンスの雰囲気を出すように各小節の1拍目を強調しながらリズムカルに演奏します。この曲全体としてエレガントに、優雅に弾いて下さい。

6小節目にある装飾音はオプションとして、弾いても弾かなくてもよい。

15. Lesson Introduction to the Study of the Guitar (op.60), no. 6

この曲の軽やかさと優雅さは、高音の短い旋律と低音とのかけあいで生まれます。ベースがはっきりと表現されるように意識して。また、各小節はクリアでリズムックな2拍（4拍子ではなく）で構成されています。

21小節目から23小節にかけて、ベースは記譜どおりに弾いてもよいし、または休符なしでも良いでしょう。どちらにしても、高音と低音それぞれのバランスを保って。

ダカーポから曲頭にもどった後は反復記号は無しに。

最後から2小節目のスラーはどちらかという珍しい使い方です。奏者の判断で無視されても良いでしょう。

16. Allegretto moderato 24 Progressive Lessons for the Guitar (op.31), no.3

9小節目に始まる付点二分音符は、はっきりと、途切れないように。高音側のEの音は軽く弾いて。第21小節の短い下降音階はアレグロのテンポで弾くには難しいかもしれませんが。結果として曲全体が無理なくスムーズに弾けるように、この部分だけ取り出して練習しましょう。

最後のところは、高音と低音の対照をはっきりと。

装飾音はオプションです。弾かなくてもよい。

終

Fernando Sor

The 16 Easiest Pieces especially composed for absolute beginner on the guitar

Especially composed for absolute beginners on the guitar

edited by Brian Jeffery

訳責：野村成人（有）コースタルトレーディング / ムジカアンティカ湘南

mail: nomura@coastaltrading.biz 2013/Jul